

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	42	実施計画番号	114
事務事業名	エコツーリズムの推進		
個別事業名	奥入瀬溪流利用適正化協議会負担金	事業開始年度	平成14年度
担当課名	観光推進課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	平成15年、平成16年実施。その後3年間は七曲区間落石等の発生により休止。平成21年度から再開、今日に至る。		
事務事業の目的	国道103号青ブナ山バイパス開通後を見すえ、奥入瀬溪流でもあらたな道路利用、観光施策、環境保全等のあり方を模索しその方向を探る。		
実施状況	奥入瀬溪流の沿道国道103号で10月下旬の2日間一般車両通行規制を実施し、自然環境保全の啓蒙と理解促進のためシャトルバスを運行。 平成24年度はおよそ2700人がシャトルバスを利用。		

## 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	14	13	12
	活動日数(日)	2.5	2.5	2.5
	人件費(千円)	1,260	1,170	1,080
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

## 【事業費の推移】

	22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)	1,500	1,500	2,800
うち一般財源	500	500	1,800
うち国県支出金	1,000	1,000	1,000
うち地方債			
うちその他			

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	交通規制及び併催事業の実施				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		日	2	2	2	
	活動指標名②	①温室効果ガス(CO2)②大気汚染物質(NOX)の減少率				
成果指標	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
			①77% ②62%	①61% ②44%		
	成果指標名①	参加者数				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
成果指標		人	目標値	6,500	6,500	6,500
			実績値	4,870	6,262	
			達成度(%)	75%	96%	
	成果指標名②					
成果指標	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

\* 従事者数 実施日従事者+通常業務0.5日

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	42
計画No	114

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b>	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		奥入瀬溪流における新たな道路利用等、将来展望を考える上で極めて重要な事業と考える。	
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b>	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		参加者の意識啓発をはじめ、環境保全に対するデータ収集、自然環境を生かした新たな観光事業等、着実な実績に結び付いていると考える。	
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	コスト削減の余地 <b>2 / 6</b>	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1		効果を下げずにシャトルバスの料金徴収など、コスト削減できる要素があると思われる。関係機関全体での新たな協議の余地がある。	
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b>	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		自然環境の保全は広く市民が望んでおり、事業の実施にあたっては官民協同で行っていることから、公平性は確保されている。	
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

**効率性を改善して継続**

### 方向性の理由

紅葉の時期、奥入瀬溪流へのマイカーを規制し、溪流沿いを歩くという形態は、奥入瀬溪流での本来の楽しみ方であるとともに、環境保全の観点からも重要なスタイルである。今後も、国、県と共通認識のもとに、関係事業者との連携により推進していくことが望まれる。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

提供するソフト事業や当該事業へ協力いただく団体の拡充を図り、一層の目的遂行に努めたい。